

第2学年 (特別活動) 指導案

日 時 令和元年 10月2日(水)5 校時

場 所 体育館

生徒数 31名(男子7名 女子24名)

指導者 矢野川 研、沖屋 あずさ

1 教材名 空飛ぶタマちゃん (心の冒険教育)

2 教材について

(1) 教材観

今回取り入れたアクティビティは、どちらも仲間と息を合わせて体を動かさないと成功できないものである。エブリイボディアップは手をつないだ仲間と同時に立ち上がる動作をしなければならず、相手の動作を観察したり、声を合わせて立ち上がるなどの工夫が生徒から自然に出てくることを期待したい。また、2人から始めるので、初めは成功しやすく取りつきやすい。後ろへ転倒するとケガにつながるなので、安全に留意する。

空飛ぶタマちゃんは、初めはうまくいかないと思われるが、練習を重ねることで要領をつかんでいくと思われる。その過程で生徒たちから様々な工夫の声が出てくると思われるので、その声をきちんと拾うことを指導者も生徒も大切にするように留意する。仲間と息が合い、ぬいぐるみが大きく跳ね上がった時の達成感をあじわわせたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、明るく活発で素直な生徒が多い。しかし、20校以上の小学校から進学してくるので、人間関係をつくるのに時間がかかったり、表面的な付き合いになることもある。男子7人、女子24人という、極端に男子が少ない環境にあり、男子は男子で固まりがち、女子もいくつかのグループに分かれたりすることがある。特に女子は、仲が良くしていても、ちょっとしたことで揉めて、グループが変わったり、なかなか元通りにならない場合もある。そのような状況を少しでも改善するために、1年生の頃から、学期に2～3回はエンカウンター的な取り組みを行ってきたので、グループで協力して、エクササイズに取り組むことはできる。

11月12日から修学旅行を控えているので、今回の授業を通して学級全体の雰囲気良くなり、全員で協力して修学旅行を意義のあるものに行きたいと考えている。

(3) 指導観

本時の活動では、自分一人が頑張っても課題をクリアすることはできない。そこで、成功するには仲間との協力が欠かせないこと、協力するには相手の声に耳を傾けたり、自分の考えやアイデアを伝えて共有するコミュニケーションが必要だということに気づいてもらいたい。また、相手の行動をしっかり観察したり、声を出して息を合わせることで課題を解決できることを体感し、達成感を感じてもらいたい。

進んで活動に参加できるように、みんなが安心して参加するためのルールを確認することも忘れて

はならない。

3 本時の指導

(1) 本時の目標

仲間の言動を意識し、課題解決に向かって仲間とつながりながら一体となって目標を達成する喜びを実感する。

(2) 準備物

ブルーシート、ぬいぐるみ、振り返りシート

(3) 学習の展開

時間	活 動	留 意 点 (○)
導入 5分	1. 指導者との出会い 2. 本時のめあて、ルール、注意事項、を聞く。 ・クイックチェック	○緊張をほぐし、安全、円滑に授業が始められるために ・楽しい時間にすること。 ・振り返りがしやすいめあてを提示する。 ・意思表示させ、参加意欲を高める。
展開 10分	3. アイスブレイク エブリボディアップ 説明を聞く ・2人組で ・4人組で…最後は全員で	○心と体の緊張を解き、仲間との一体感、安心感を持たせる。 ・後ろに立つなど、安全に配慮する。 ・時間を決めて取り組ませ、途中でも次の活動に移る。
25分	4. メインアクティビティ 空飛ぶタマちゃん 説明を聞く ・真上に飛ばす練習 ・ステージまで運ぶ ・シートを裏返す	○生徒の発言に仲間が耳を傾けているか観察する。 ・めあてを意識して取り組んでいるか。 ・一つの課題が達成できたら、次の課題へ挑戦させる。 ・振り返りの時間を確保する。
10分	5. 振り返りシートに記入し、シェアリングをする。	○成功や失敗の要因、気づいたことをシェアする ○本時の活動を今後どのような場面で生かすことができるか。